

いるま

第38号

令和3年9月1日発行

題字・発行者

会長 比留間 英雄



会長就任にあたって

会長 比留間 英雄

この度、井上清会長の後任として会長に就任いたしました。

伝統ある入間支部の会長は私には身に余る役職ですが、皆様のご支援をいただきながら精一杯務めたいと思っております。

新型コロナウイルスの感染が収まらず定期総会が書面会議となりましたので、この場を借りて就任の挨拶をさせていただきます。

私は常々、本会の主体は入間支部を構成する十一の班にあると考えています。各班ではいろいろな活動を行っていますが、その活動を支えていくことが支部としての第一の役割であると思います。

私は越生班の一員ですが、どの班にも課題や要望があるはずで、その要望等が支部の範囲を越えるときは、県本部に諮っていきます。会長は支部長として県本部の会議に出席するので、できる限り皆様の声を届けたいと思います。次に、年間行事を充実して、

参加に満足できるような内容に努めたいと思います。

私は会報「いるま」の編集に関わって十年になりますが、その間多数の方の原稿に接して多くのことを学ぶことができました。

また研修旅行への参加は十二回になりますが、各地の文化遺産に触れて見聞を広められたうえに、会員との親交を深めることができ、良き思い出になっています。参加することで得られた賜物です。

現職校長と合同の教育推進研究協議会は、学びあう場になることを期待しています。会報「いるま」への投稿、囲碁・ゴルフ大会への参加も呼びかけます。

県本部のホームページを開き他支部の活動も参照され、入間支部へのご意見をお聞かせください。

コロナ禍が続きますが、会員の皆様が健康で生きがいのある日々を過ごされますようお願いして、私の挨拶といたします。



退任にあたって

「終活」より「触活」で

顧問 井上 清

振り返ってみますと「入間地区退職校長会」は県下で最大の組織であり、入間地区全体での行事については東西南北の順で企画運営を取り仕切って行ってきました。順番が決まっていると、計画通り予定が立てられ易いとの声が聞かれます。

また、令和元年度の「埼玉県退職校長会総会」での企画準備、実施は「オール入間」での取り組みでした。それぞれの班が役割を引き受けての取り組みはまことに見事でした。県本部からも絶大な評価をいただき、生涯忘れることのできない大会となりました。

本会の諸行事で担当の班の協力の重要性を感じたことは、定期総会「彩の国・教育の日」協賛教育推進研究協議会です。

それぞれ事前に準備会を持ち、当日の運営に万全を期すという方式が定着してしましました。班と本部との連絡がスムーズであったのは、各班役員への配慮の賜物でした。

広報委員会の活動は、編集委員の熱意によりコロナ禍で諸行事が中止の中、広報の発行は本会の絆であるとの精神で計画通り発行できました。

編集内容については、「会員の声」「生きがい」にみられるその人となり非常に胸を打ちます。

さて、今後の私の生き方についてですが、「人との関わり」接触の大切さを心の支えとしていきたいと思っております。人との接触はコロナ禍ではその機会を失いがちですが、個人としていろいろな機会を想定して他者との関わりを大事にしたいと思っております。

私には日常の中で、「家庭菜園」での仲間がいます。除草や野菜の収穫、耕作、施肥など、お互いの情報交換が楽しみです。さらにお互いの生き方・方針などを披露し合っています。人の生き方は様々です。孤独に生きるとか、「終活」とか言われますが、私は「触活」で生きたいと思います。

令和3年度定期総会

「コロナ禍の新たな一歩」

幹事長 柳 榮治

全国的なコロナ禍拡大の中、川越市・所沢市・富士見市及び三芳町が「まん延防止等重点措置」の対象区域になるなど、感染拡大防止対策の徹底が必要な状態が続いております。このような状況の中、令和3年度入間地区退職校長会定期総会は、令和三年五月七日(土)、川越市・ウエスタ川越(多目的ホールABC)を会場として開催予定でした。しかし、新型コロナウイルス感染拡大防止と、ご来賓・代議員をはじめ、総会出席者の方々の命と健康を守ることを第一と考え、また四月二日の新旧理事会で総会の協議内容等について審議していることから、やむなく中止し、書面表決を活用して、総会の開催に替えることといたしました。

本来なら多くの代議員の皆様にご出席いただき、決議事項のご審議と合わせ直接日頃の活動をご報告し、ご意見等をお伺いする大変良い機会にもかかわらず、このような開催形態になり残念です。

今年に入り、総会に向けていろいろとご準備していただいた狭山

班実施委員の皆様方に感謝申し上げます。

書面議決には、左記のような方法をとりました。

① 四月二十三日

本部会で、総会の開催方法について書面議決とすることを決定。

② 四月二十四日

令和3年度総会要項と書面表決書を代議員に配布。

③ 五月十七日

代議員の皆様から提出された書面表決書を集計。

④ 五月十七日

総会要項と書面議決の結果報告を全会員へ配布。

《書面議決の結果報告》

代議員の皆様から、五月十四日までに書面表決書をご提出いただきました。

◎ 代議員総数

◎ 書面表決書回収数

【議案】

一号議案 令和2年度事業報告 (賛成六九 反対〇)

令和3年度 新会員紹介

30名(敬称略)

班	氏名	班	氏名
川越	小林英二	所沢	依田伸二
川越	神田郁夫	所沢	岩間健一
川越	伊藤博	所沢	増田英明
川越	矢島充夫	所沢	長岡伸一
川越	斉藤伸之	飯能	小澤暁
川越	福島正美	飯能	青柳義久
川越	森田恵	日高	吉原敦子
川越	藤下純二	日高	諸井将博
狭山	今村義浩	日高	山崎敏雄
狭山	澤田剛	坂戸	矢島彰
狭山	関根保子	鶴ヶ島	伏見隆一
所沢	川崎哲也	鶴ヶ島	田中浩之
所沢	中村靖	入間	早川等
所沢	橋本徳邦	入間東部	山崎祐一
所沢	井関義邦	入間東部	城間卓夫

二号議案

令和2年度決算報告 (賛成六九 反対〇)

【意見等】

三号議案

会計監査報告 (賛成六九 反対〇)

・名簿等の取り扱いについて

四号議案

令和3年度役員承認 (賛成六九 反対〇)

《今後の活動について》

五号議案

令和3年度事業計画案 (賛成六九 反対〇)

事業の新たな会員交流のつどい。会員研修及び親睦旅行も中止いたしました。教育推進研究協議会は、昨年同様、会報「いるま」にて発表いたします。

六号議案

令和3年度予算案 (賛成六九 反対〇)

このように厳しい状況ですが、各班会員の皆様方と一層連携を密にし、コロナ禍の教訓を生かして

七号議案

会則十二条一部改正案 (賛成六九 反対〇)

一歩でも前進できるように活動してまいりますので、今後ともご支援

【結果】

すべての議案について、賛成多数をもって可決されました。

ご協力をお願いいたします。

入間地区退職校長会役員組織

1 本部役員・事務局

顧問	井上 清
会長	比留間英雄
副会長	吉武 覚・富士池長雄・加藤 匡代・新井 周平・柳 榮治
監事	永井 博彦・野崎 皓布



幹事(幹事長) 柳 榮治 (会計) 羽田 禮子・清水 道子 (文書配布担当) 廣澤 和夫
 (広報) 熊本美智子 (県ホームページ) 嶋田恵一朗

2 専門部

	研究調査部	福利厚生部	広報部
担当 副会長	富士池長雄	加藤 匡代・吉武 覚	新井 周平
専門部 会員 ○部長	○須ヶ間 章・佐藤 信弘 小野 順治・山中伊久枝	○島崎 利雄・小見山 実 青木 章次・原 邦宏	○熊本美智子・土屋 礼子 久田 紘治・石井 秀明
担当 幹事	清水 道子	廣澤 和夫	熊本美智子 嶋田恵一朗

3 各班の役員・会員数 (2021.7.2現在)

班	代表理事	文書配布担当	会員数
川 越	須ヶ間 章	島田 祐	144
狭 山	久田 紘治	田代 寛	69
所 沢	佐々木正憲	内野 正行	136
飯 能	佐藤 信弘	小久保則之	67
日 高	吉本 祐一	吉本 祐一	44
越 生	浅見 登	浅見 登	27
毛呂山	村本 洋	村本 洋	28
坂 戸	高橋好次郎	小島 勉	68
鶴ヶ島	渡邊 俊雄	渡邊 俊雄	18
入 間	小野 順治	小野 順治	51
入間東部	湊 貞一	山田 幸次	69

5 会報配布まで

- 会報「いるま」は年2回発行(9月・2月)
- 県会報は、年3回(8月・1月・4月)
- 原稿執筆は、入間地区を東西南北に分け、ローテーションで依頼、編集会議で過去執筆の有無も確認し人選、併せて各代表理事に人選を依頼
- 会報配布は、第5回の編集会議で、文書配布担当へ郵送
- 理事会が開催できる場合は、代表理事から文書配布担当に送付
- 文書配布担当から⇒配布係へ⇒各会員へ
- 西部教育事務所・各市町教育委員会・現職校長にも配布

4 埼玉県退職校長会 関係

県副会長	比留間英雄
監事	村本 洋
庶務会計	羽田 禮子
研究調査	富士池長雄
福利厚生	吉武 覚
ホームページ	嶋田恵一朗
県会報	熊本美智子



- ♪ 今号より4面カラー印刷となり「作品の窓」等、色彩豊かにお届けします。
- ♪ 会報は埼玉県退職校長会のホームページにも掲載しています。コロナ禍における各支部の活動もご覧ください。

新たな資料館づくりを夢見て

坂戸 井上 耀基

高校生の頃、歴史に興味を抱き、大学の史学科をめざしたことがありました。退職を機に、郷土史への関心が再燃し、地元郷土史研究会に足を運ぶようになりました。五年前の例会で、地元にある歴史民俗資料館のことが話題に上りました。戦前に建てられた校舎の一部を移築改修し、昭和五十五年にオープンした資料館は、かなり老朽化が進んでおり新たな資料館づくりが課題となっていました。

四年前、郷土史研究会のメンバー十数名が中核となって、市当局に歴史資料館の建設を要望しようと「坂戸歴史愛好会」という組織を立ち上げました。目的は郷土の歴史や文化を学ぶことを通して文化の香り高い街に寄与しようと



現・坂戸市歴史民俗資料館の前庭にて

考え発足したわけです。

初年度は県内外の郷土資料館を視察して廻りました。この視察を通して感じたことは、どの資料館建設にも行政の内外を問わず情熱を燃やして取り組んだ人がいるということです。費用対効果を考えると二の足を踏む資料館建設ですが、閉校する学校施設の複合的活用の道を考え、工夫を凝らして建設に漕ぎつけている行政があることに感動しました。

二年目には、愛好会のメンバー一人一人に「自分史」を語っていただき、会員の親密度は一気に高まったように感じられました。

三年目には、市当局に新しい歴史資料館建設について要望書を提出し検討いただきました。

四年目の今年度は、市内在住の郷土史家の所蔵している貴重な文化財などを臨時的に収蔵してくれる公共施設の提供について市当局にお願いしているところです。

出来得るなら近い将来、新しい歴史資料館を拠点に、市民や子どもたちが郷土の歴史から学び、自分たちの郷土に誇りをもって暮らしていけたらどんなに幸せかと、生存中に実現できるかどうか分からない夢を抱いている現在です。

一読、十笑、百吸、千字、万歩

川越 加藤 伸次

健康で長生きする知恵として、「一読、十笑、百吸、千字、万歩のすすめ」があります。私はこれに心がけていますが、今の学校教育にも有効だと感じます。

さて、私は定年退職後、幼稚園の園長として十一年目です。本幼稚園は全国でも珍しい農協の設立です。代々、退職校長が務め、地元の本幼稚園の園長ができることは私の誇りです。また、園児たちと過ごせ、幸せです。前々代の園長は中学校時代の音楽の先生です。その恩師が作詞・作曲した「大きな桜の木の下でみんな仲よし明るい子、赤白黄色ピンクのお花、広いお庭に笑ってる」という本幼稚園の園歌は正に幼稚園の理想の姿です。メロディーも歌いやすいです。私は、朝と午後、園庭でバスの誘導や園児の遊ぶ様子を見ています。園児が「鬼ごっこしよう」と言ってくるのですが、幼稚園の子でも、かけ足は速いです。

一方、年々体力は落ち、痛いところも出ます。新型コロナで各地の健康マラソンは中止です。仲間と近隣の大会に出ていますが、飲み

がい



大きな桜の木の下で遊ぶ園児たち

会もできず、仲間とも会えません。私は走るのが楽しいわけではありません。普段は歩くだけです。好きなソフトボールのために体を動かしています。ソフトボールも中学や高校の野球部ではなく、好きだけです。子どもの時に好きだったこと、やったことは高齢になってもできます。中学時代、陸上部で二千メートルを走り、体育の先生のお陰で自信を持ちました。退職校長会の配布文書をその恩師に届けています。玄関には、川高時代、埼玉県で優勝した賞状があり、百メートル十一秒五とありました。今の記録なら何秒ぐらいでしょう。終わりに、中一時代の担任もこの文面をお読みになるでしょう。お世話になった先生方、現職時代のお知り合いの先生方に私が元気であることをお伝えするとともに、改めて感謝申し上げます。

発達障害の子どもたちに

心揺らされて

入間 村野 志朗

『卵を割らなければオムレツは食べられない』という諺がある。退職して十五年、まもなく七十五歳。未だ卵の殻を割る勇気がなく、現在も東京家政大学狭山キャンパス内にある、かせい森の放課後等デイサービスの施設長を務めている。ここでは、発達障害の子どもへの支援と、特別支援学校教諭免許状取得を希望する学生の、学内体験実習の指導をしている。



音楽療法による支援

私の教員時代は、荒れ狂った生徒を相手に格闘した日々であった。管理職になってからも荒れる原因が気になっていたので、四十六歳の時、早稲田大学の心理学の研修会に参加した。荒れる原因が発達障害にあり、一番困って

いるのは本人だということが初めて分かった。以来、発達障害の軽減化が私のライフワークとなった。

この施設では、発達に障害のある小中高生が、放課後、自己肯定感を高める目的で、運動・音楽・絵画造形の活動に参加している。指導者は、小中学校の教員

を退職した、教職経験豊かで専門性の高い指導力のある先生と大学の教授。さらに、年間延べ四百名の大学生が活動に参加している。

発達に障害のある子の成長は著しい。先日、やわらかな色彩で表情豊かに描かれた高校一年生の自画像の作品を見て、心が震える感動を覚えた。この生徒は、小中学校時代はじめの対象となっていた。当時の作品は、無彩色で暗い作品が多かった。この作品から、生徒の心の変容を感じ取れた時、生徒がとても愛おしく思え、この仕事を続けていて本当によかったと思った。人を育てるという仕事は責任が重い。退職されて悠悠自適な生活を送られている先輩・同僚の様子を伺うたびに、羨ましいと思うこともあった。だが、ここまで来たら、これが私の人生だと思い、とことん発達障害の子どもたちに関わっていかうと思っている。

生き

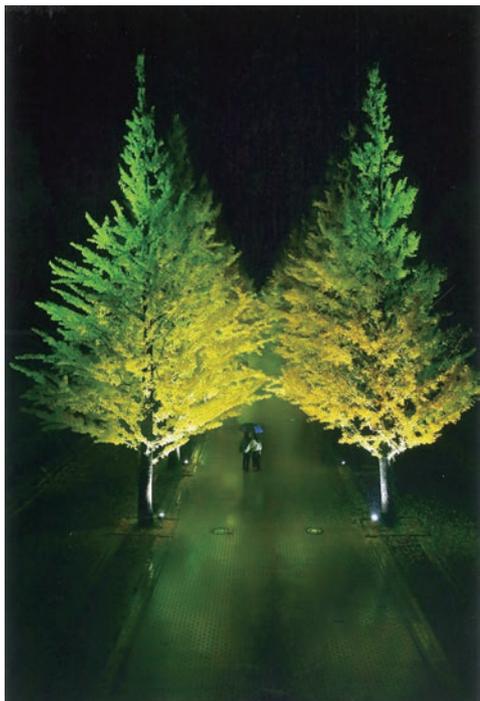
ポケ防止からの発展

飯能 佐藤 信弘

現職中は日々の職務に一杯で、趣味もなく特技もなく、仕事一筋の生活であった気がしています。だから、退職後の生活で思い描いていたことは、一つは実学、今日

生かせる学びをしようでした。紆余曲折がありました。二つは、先生を選ぼうでした。「習い事は先次第」と何度も聞いてきたことでした。行き着いたところは、日展等に今でも現役で出品している書道家と都内で写真教室を主宰しているカメラマンでした。教え方云々というより、持っている知識と技術、そのハートに圧倒される日々でした。

そして、現在、生きがいとなつていのは、その先生方に勧められた毎日書道展や二科展等フォトコンテストへの出品です。入選等の知らせが届くと感動で



作品名「希望への道」

す。さらに、美術館等展覧会場に足を運ぶと、たくさん素晴らしい作品に出会い、新たな感動を覚えます。良き作品は、人を惹きつけ、人に目標を与えてくれるものです。知らず知らずのうちに次への目標が生まれ、何が不足なのか課題を探っている自分がいるのです。

学び始めた頃は、コンテストへの出品など考えたこともありませんでした。ポケ防止になると軽い気持ちだけでした。先生の導きでのめり込み、退職後の最初の感動が生きがいになってしまいました。今では、褒め合い導き合う仲間もできて、参加するサークルは謙虚になる場となっています。年若い道に精進して、毎年、感動に出合いたいと希望を抱いています。今後も「学べば即ち固ならず」です。

会員の声

日々、漫然と

川越 近藤 誠

生来の怠け者ですので、趣味への没頭や「生きがい」などとは無縁ではありますが、おかげさまで退職後の平穏な生活が続いています。漫然と日々を過ごしていても、「ボーっと生きてんじやねーよ」と叱られることもなく、その日その日の「とりとめのない暮らし」を愉しんでおります。

民話や昔話の世界では、勤勉、勤労が尊ばれ、日々を無為に過ごす輩には、天罰が下つたりするようですが、今のところはそんな兆候もなく、かつての職業生活を時々思い起こしております。将来は、漫然と働いているとAIに叱られる時代が来るのでしょうかね。

大岡信さんの名著『ひとの最後の言葉』（ちくま文庫）で、北斎の辞世の句を知りました。

ひと魂でゆく気散じや夏の原
自らの魂が、夏の夜の野原を悠然と飛び回って、「気散じ||気晴らし」している様を思い浮かべながら永眠する。この仙人のような境

地にはとてもなれそうもないけれど、ちよつといいなあと感じている毎日ではあります。

自分を律しつつ、充実した毎日

川越 福島 正美

今年三月に定年退職し、三十八年間の教職生活が無事終えることができました。その内、校長職にあったのは七年二か月（三校）でしたが、多くの校長先生方から、分らないことを一つ一つ教えていただきながらの毎日であったことが記憶に残っています。この度、入間地区退職校長会で、お世話になった校長先生方と再び一緒に過ごすことを嬉しく思っています。よろしくお願いいたします。

退職してから三か月が過ぎ、ようやく今の生活リズムに慣れてきました。今年一年の目標は、これまでの荷物の整理と週一冊の読書です。これからは、実行しないことに対して、ますます誰からも何も言われなくなりそうです。今まで以上に自分を律しつつ、充実した毎日にしていきたいと考えています。

教師としての原点

所沢 橋本 徳邦

本年度から入会させていただきました

ました。よろしく願います。四月一日に再任用で勤務する学校に着任しました。これまでは、当たり前のように勤務する学校に通っていましたが、改めて自分の居場所があるという事はありがたいことだと思いました。

勤務校では、特別支援学級の担任をさせていただいています。貴重な機会をいただき感謝しています。朝、教室で子どもたちを迎え、共に走り、歌い、学び合う生活にやりがいを感じています。初めての特別支援学級の担任ということ

で、わからないことも多く、試行錯誤を積み重ねています。文字通り教師としての「原点」に立ち返った感じがしています。今後も健康に留意し、勤務校の校長先生や先生方にご迷惑をおかけしないよう努めていきたいと思っております。

共に学ぶ

所沢 武内小次郎

平成二十五年三月定年退職。

その後、再任用による初任者指導教員としての五年間は、若い先生や子ども達と接する楽しさが蘇ってきた日々でした。

そんな折、市教委から学力向上支援講師のお話を頂き、新たに教科指導に挑戦しようという気持ち

になりました。具体的な昨年度の指導は、高学年の社会科週十八時間でした。特に、六年年の児童は、わが国の今の国際問題や環境問題への関心が高く、積極的に取り組んでくれました。

歴史の授業の中では、私の両親から聞いた戦争の話や東京オリンピックの話を出しました。

更に、これからの社会の持続可能な開発目標など、自分達で今できる事を考えさせ、共に学ぶ有意義な経験が得られたと思います。

生涯スポーツの推進に携わって

狭山 野澤 誠一

今年の三月末まで、県民の方々が気軽にスポーツを楽しむことのできる環境づくりに携わってまいりました。昭和三十九年に行われた東京オリンピックの際には、スポーツ少年団が「スポーツによる青少年の健全育成」を目的として創設されました。そして今回行われる東京オリンピックでは、日本スポーツ協会を中心にくつつかの制度の見直しが必要とされ、少子高齢化への対応やスポーツ人口の増加に結びつけるための方策が始まりました。その一つとして、現在地域で活動しているクラブの仕組みを見直し、新たな仕組みを構築していくことです。そ

の基盤となるのが、現在全国で三千以上ある総合型地域スポーツクラブや創設から六十年以上経ったスポーツ少年団です。是非、これからの地域スポーツのあり方に注目して頂き、お近くにある総合型地域スポーツクラブなどの発展にご興味をお示し頂きたいと思えます。

三十五年ぶりの大雪

飯能 中川 佳和

平成三十年十二月に母が脳梗塞で倒れた。以来、埼玉と実家のある富山県を往復する二重生活が続いている。その間、昨年一月に父が亡くなった。母は特養に入居しており、特に心配する疾病はなく元気に過ごしている。冬季は雪が降るため三か月間滞在した。今年の冬は三十五年ぶりの大雪に見舞われた。一月から二月にかけて数回に亘って大雪が降った。一晩で三十センチ積もり、最大積雪が一メートルを超えたこともあった。約五十年ぶりに屋根の上に登って雪下ろしをした。正直とても怖かった。屋根から落ちた雪が屋根まで届いた。この雪山を妻と二人で一輪車を使って除雪した。近くに用水路があり、そこに雪を捨てた。延べ二十日間に亘り除雪作業をした。雪国の厳しさを味わった。

苦手なスマホにささやかな挑戦

日高 吉本 祐一

知識ある人には簡単なことでも、理解に苦しむのが、SNSで代表されるスマホの世界です。私は現職の頃からスマホにしましたが、電話にメール、そしてインターネットが出来る程度でした。その頃から、WiFiって何？SIM、アプリのインストール、ストレージ、クラウドやアップデートなど、何やら分からない言葉だらけ…。

その私が格安スマホに挑戦。自ら設定・申し込みとハードルが高く、悪戦苦闘。幸い時間だけは使い放題なので、失敗を繰り返しながら数日かけてクリア。その後、機種変更や身内の手続きにも成功。私にとつては貴重な挑戦でした。今は、ラインやアプリの活用、ネットショッピング等々、新しい世界が広がり、スマホと楽しく付き合っています。

中禅寺湖初釣行

鶴ヶ島 江口 勝浩

退職後三年目を迎え、少しの勤務と趣味を楽しみながら生活している。英国伝統の釣り・フライフィッシングは私の趣味の一つであり、関東近辺の溪や湖で楽しんでいる。

聖地である奥日光・中禅寺湖でレイクトラウトを釣り上げることが退職後の目標であり、今年ついに実現した。前夜十一時自宅を出発、車中で仮眠をとり、早朝四時から膝まで湖面に浸かり実釣開始。ところが全く当たりがない。元々ネイティブな魚しかいない中禅寺湖から「一見さんお断り」と言われているようだった。昼寝をして夕まずめ、何とか五十五cmのレイクを釣り上げることができた。その手応えは今も私の腕に残っている。

コロナ禍にあり、政府による対策への不安と憤りを感じつつも、趣味で心を癒す毎日を送っている。

近況報告

入間 矢野 和彦

定年退職後、文部科学省のシニア派遣でコスタリカ・サンホセ日本人学校へ赴任しました。帰国後は、スポーツジムとゴルフで健康管理に努めています。

コロナ禍の影響で、古い仲間との懇親会も無くなり、家族以外の人と会う機会が激減しました。帰国後始めた四国八十八ヶ寺のお遍路も中断したままです。フルムーンや飲み鉄で全国を巡る旅にも行けません。皆さんと同様に、不自由で残念ですが、日本中が我

慢している状態なので、仕方ありません。最近は何忘れが多くなり、何かにつけて段取りが悪くなり、何か自分と対峙しながら、それでもまだ健康で生活できていることに感謝しつつ、余生を送っています。

学校への思い

入間東部 山下 道夫

過日、勤務先の三芳町教育相談室を教え子が訪ねてくれました。小学校六年で担任して以来の再会でしたから約三十年ぶりです。すらすらと背の高い素敵な中学校の英語の先生になっていました。教員として中堅どころ、この先の進むべき道を求めているとのことでした。たった一年の縁なのに、頼りにされていることに気持ちが高ぶります。この卒業生の話に聞き入ってしまいました。と同時に、改めて教師という職、様々な出会いを与えてくれた学校に感謝しました。

今は、初任研指導という形で学校に関わっていますが、初任者はほんの些細な褒め言葉を支えに日々成長しています。今回のような出会いも作ってくれた恩返しとして、今後もできる形で学校に関わっていかれたらと思っています。

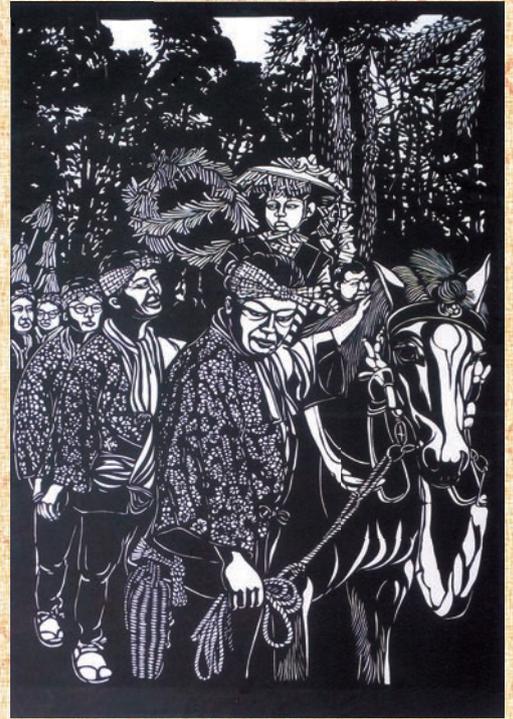
作品の窓



ペーパークラフト「般若」
所沢 阿部 芳昭



おり紙「花火」
坂戸 阿内 久子



切絵「出発前」—子ども流鏝馬—
毛呂山 都所 壮



木彫画「悲しきマリア」—ザビエタより—
川越 清水 隆雄



陶芸「孔雀」(ランプシェード)
狭山 青柳 進



陶芸「大皿・花びん」
川越 田島 玲子

編集後記

今号より、カラー版でお届けいたします。

巻頭には、比留間英雄新会長と井上清顧問の挨拶を掲載しました。井上顧問には、長く編集に携われ指導頂き深く感謝申し上げます。役員改正により新井周平副会長が就任し、左記の委員が担当します。

広報担当副会長 新井 周平
部長・東部担当 熊本美智子
南部担当 久田 紘治
北部担当 石井 秀明
西部担当 土屋 礼子
(土屋)



比留間会長(中央)を囲んで

入間地区退職校長会会報

第三十八号

発行 令和三年九月一日

発行者 会長 比留間英雄

越生町成瀬一四一—

印刷所 六三四堂印刷株式会社